

2023年 大学生の就職率97.3%！ 前年より1.5ポイントアップ

コロナ前には及ばないものの、3年ぶりに上昇！

旺文社 教育情報センター 2023年5月31日

5月26日、文部科学省と厚生労働省は、2023年3月卒業の大学生・短大生などの就職率を公表した。4月1日現在の就職率は、大学生97.3%（前年同期比1.5ポイントアップ）、短大生98.1%（同0.3ポイントアップ）。大学の国公・私立大別、男女別、文系・理系別はともに、いずれの区分でもアップした。文科省・厚労省による本調査は、就職状況などの実態を把握することで就職に関する問題に対処するため、1996年度から実施されている。

◎文部科学省・厚生労働省「大学等卒業者の就職状況調査」の概要

- ・調査依頼先＝設置者・地域を考慮して抽出。
- ・調査方法＝各校で調査対象学生を抽出。電話・面接などで性別、就職希望の有無、就職状況などを調査。
- ・調査時期＝10月1日、12月1日、2月1日、4月1日。
- ・就職率＝就職希望者に対する就職者の割合。

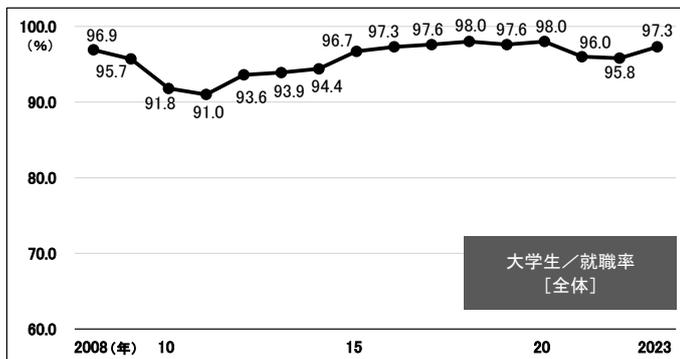
※2022年度（2023年就職者）の調査数

- ・国立大21校、公立大3校、私立大38校、短大20校、高等専門学校10校、専門学校（専修学校 [専門課程]）20校。
- ・対象者数＝大学・短大・高専…計 5,690人、専門学校…560人（短大は女子のみ、高専は男子のみを抽出）。
- ・過年度も同様の調査方法・規模で実施。

◆大学生の就職率、コロナ禍で2年連続ダウンから反転、3年ぶりにアップ

文科省・厚労省による本調査は、対象が全国の大学等からの抽出調査であり、また就職率は分母を就職希望者としている。調査開始以降、就職率の過去最低は91.0%、過去最高は98.0%。そのいずれもが、下図「大学生の就職率の推移」に示されている。

■大学生の就職率の推移



◎本ページ以降、全グラフとも共通

※文部科学省・厚生労働省「就職状況調査」より作成。

※各年4月1日現在の就職率。[例]2023年は、2022年度卒業生の2023年4月1日現在の就職率。

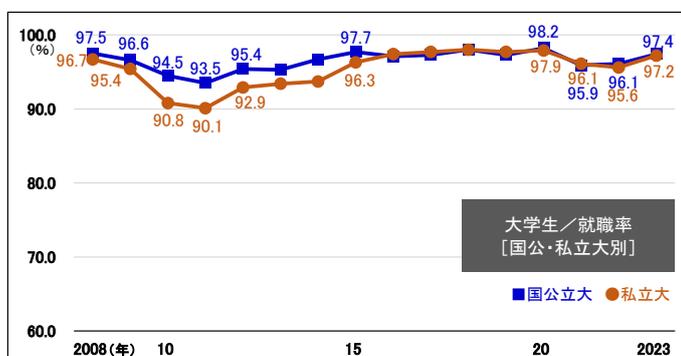
※就職率＝就職希望者に対する就職者の割合。

過去最低の就職率は2011年。2008年9月のリーマン・ショックによる景気の悪化は2010年、2011年の就職率に影響した。2010年就職率は前年より3.9ポイントダウン。調査開始以降で最大の落ち幅を記録。翌2011年も0.8ポイントダウンし、就職率は91.0%で過去最低となった。

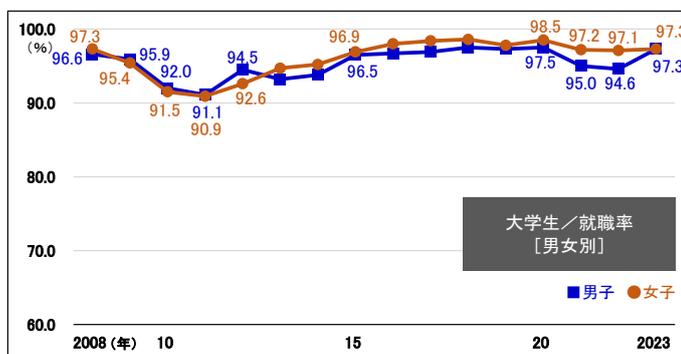
一方、2020年からのコロナ禍では、会社説明会などイベントの中止に始まり、運輸業や観光業などで大手企業の新卒採用取りやめも見られ、2021年の就職率は対前年で2.0ポイントダウンの96.0%に。2022年も小幅ながら0.2ポイントダウンした。2023年は一転、対前年1.5ポイントアップの97.3%に上昇。過去最高だった2020年の98.0%には及ばなかったものの、そのアップ幅は、過去4番目に高い(就職希望率がダウンしている点には留意)。コロナへの社会的対応による景気回復への期待の高まりや、若年人口減少のなかでの人材確保に向けた企業活動などがアップにつながったと見られる。

以下、就職率に関する区分別の推移グラフを掲載する。

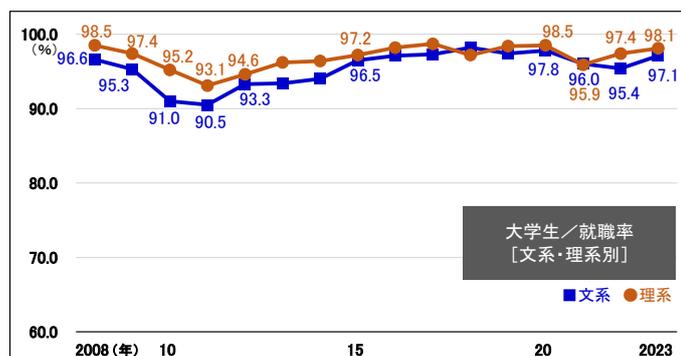
■大学生[国公・私立大別]の就職率の推移



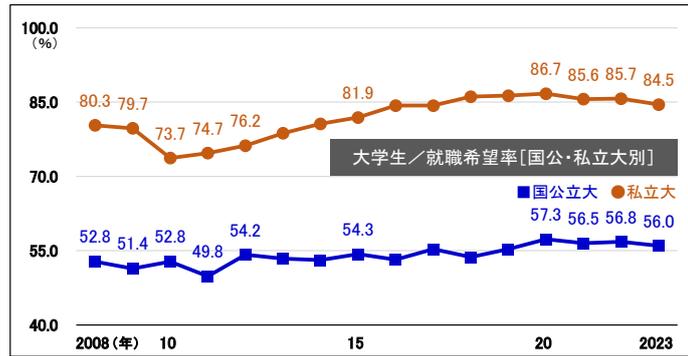
■大学生[男女別]の就職率の推移



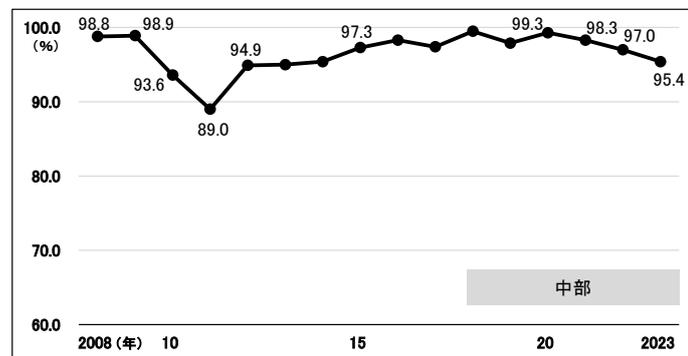
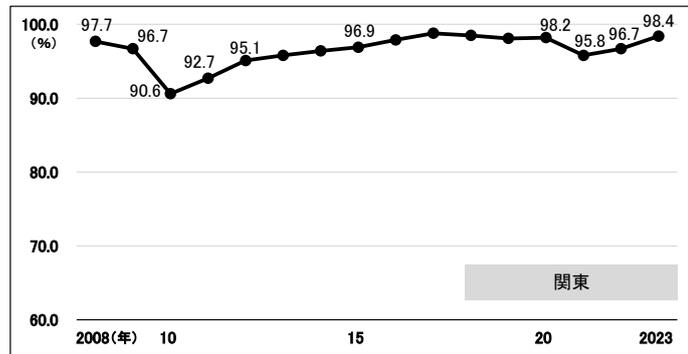
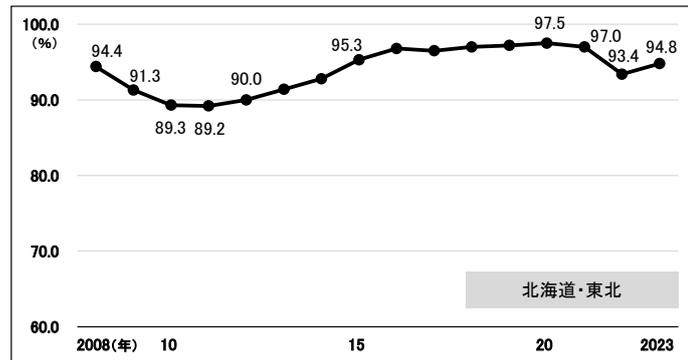
■大学生[文系・理系別]の就職率の推移



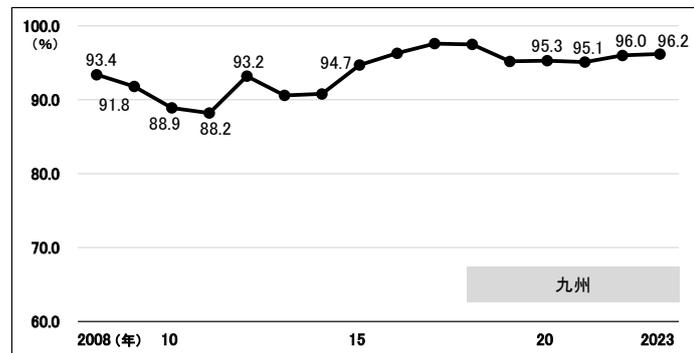
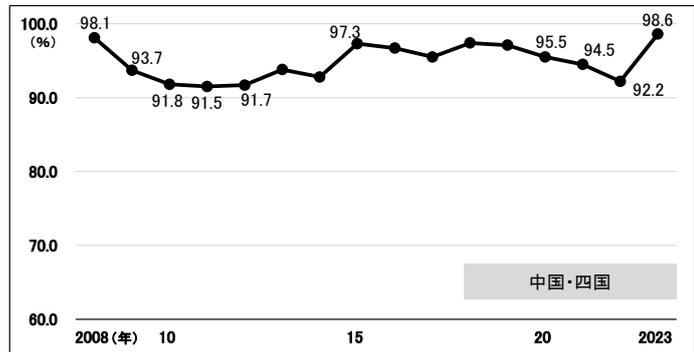
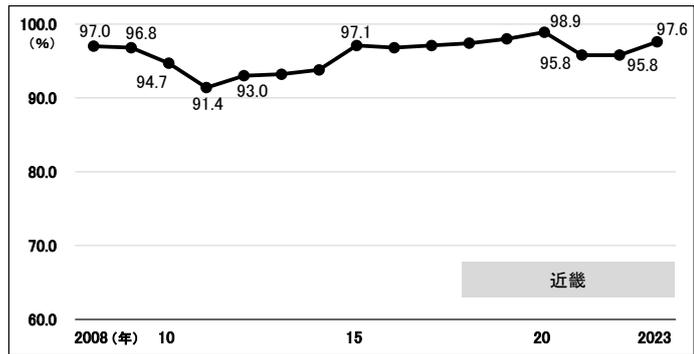
■大学生の就職希望率の推移



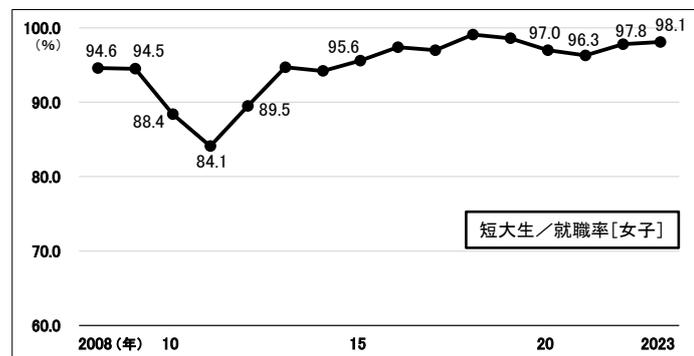
■大学生[エリア別]の就職率の推移



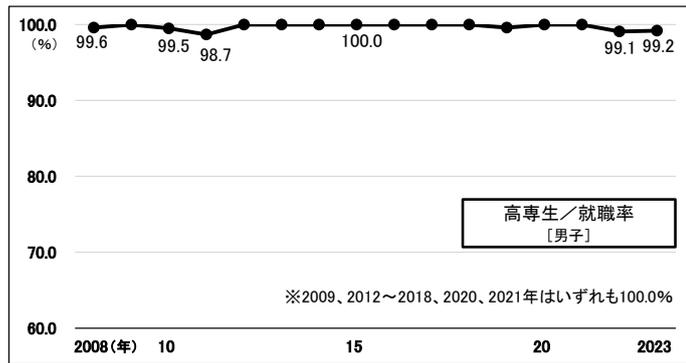
■大学生[エリア別]の
就職率の推移 (つづき)



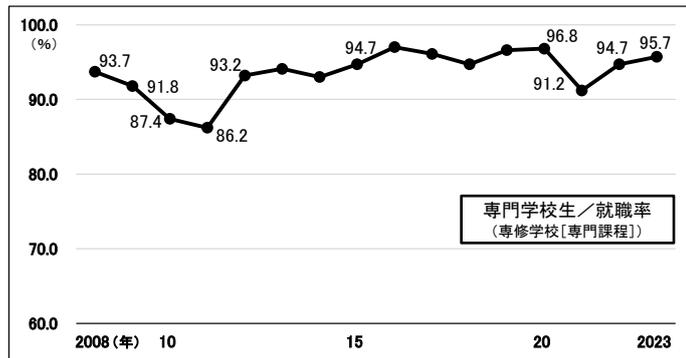
■短大生[女子]の
就職率の推移



■高専生[男子]の
就職率の推移



■専門学校生の
就職率の推移



(2023.5 加納)